

再編時代の 経営革新

第20回

皆さんに質問である。あなたがはめている腕時計の絵を、紙に書いてみてほしい。実物を見ないで正確に書けた方はほとんどいないだろう。文字盤の形は？秒針の形は？
しかし、よく考えていただきたい。腕時計は毎日のように1日何十回となく「見て」いる。しかし、絵には書けない。
これに対して、風景画家は風景を「観て」絵にする。観ていないと書けないから

直接工事費を低減する方法④

さて私は、いろいろな建設会社の月例会議に出席する機会が多い。その際、現場監督さんは、現場の様子を報告している。工事の進捗率、安全活動の状況、そして原価管理の現状などである。しかし、私が次のように質問すると、途端に答えられなくなる監督さんが多い。
「今は大丈夫だけれども、今後発生するかもしれない問題はありますか」

「観ると見る」

生達 降旗 サルタント
コンサルタント
ハタ代表取締役

「完成までに、あとお金いくら必要なのですか」
現場を毎日のように「見て」いるのだが、「観て」いないから答えられないのである。だから、問題が発生してから大騒ぎをする。
また、数字についても、「見て」いるだけで「観て」いない。例えば、今月の支出のうち、前払い、後払い、将来お金が戻ってくる部分はどれくらいあるかという事は、残工事費を算出するのに必要不可欠であるにもかかわらず、観ていない監督さんが多い。
私は、月例会議において、次の内容を現場監督さんに報告してもらうことをお奨めしている。
①現場の絵を描く
②残予算ではなく、残工事費を報告する
③あといくら費用がかかるのか。今までかかった金額は過去に過ぎない。必要なのは、今後いくら必要かという事だ。
④生のお客様の声を報告する
自分で加工しないことが重要である。